



黒川 美克 議員

防災行政について

防災マップについて

問 新たな防災マップの作成に取り組んでいると思うが、現在の状況と市民への配布時期は。

答 現在、印刷作業の段階で、3月下旬頃に完成予定。

配布時期は、出水期に入る前の5月までには行いたい。

問 一般的には、避難所、避難場所が浸透しているが、これらの違いは。

答 避難する場所として、主に指定緊急避難場所と指定避難所に区分され、更に指定避難所は、一般避難所と福祉避難所に区分される。指定緊急避難場所は、災害から命を守るために避難する場所や施設を言い、指定避難所は、自宅が被災して帰宅できない場合など、一定期間滞在する施設を言う。

問 旧大山会館も指定されているが、昨年4月より閉鎖され、使えないのではないかと。



杉浦 康憲 議員

『35人学級』について

問 昨年末、待望の35人学級への、段階的な移行の方針が国から発表された。35人学級に移行した場合の、具体的なメリット、デメリットは。

答 メリットは、個に応じたきめ細かな教育を推進して教育水準の向上を図ることができる。

デメリットとしては、学級数が増えるので、教員と教室を確保しなければならないことが挙げられる。

問 高取小学校の大規模改修への実施設計では、35人学級に対応した教室数はあるのか。

答 35人学級に対応した教室数で設計を進めている。

『GIGAスクール構想』について

問 「学び方改革」の、「個別最適化された学び」では、課題の量や時期、到達点などを個別に設定して進められているのか。

た声を市民から聞いている。閉鎖後も清掃などの管理は行われているのか。

答 昨年4月の閉鎖以降も災害は、いつ発生するか分からないことから、最低月に1回、出水期の期間については、月2回程度のペースで室内の換気、清掃などを行っている。また、この施設で使用するパーテーションやベッド、食料や飲料水等についても、迅速に対応できるよう施設内で保管をしている。

矢作川洪水浸水想定について

問 高浜市で最大何mの浸水が想定されるのか。

答 想定最大規模の浸水想定は、油ヶ淵、高浜川、稗田川などの河川周辺の一部で、最大10m程度。

問 高浜高等技術専門校の跡地活用について、私は、災害時における避難スペースや震災瓦礫の置き場として活用すべきと考えるが、市として、この土地をどのように活用していく考えか。

答 この土地については、愛知県所有の4万平方メートル余の土地であることから、所有者である県の意向とこの地域における諸条件を考慮し、総合的に判断していきたい。

答 タブレットの持ち帰りが進み、自分に合った課題や量を考え、取り組む姿が見られる。

問 大きな予算を使ったタブレットが「面白い、楽しい」だけでは困る。ロイロノート（アプリ）以外の今後の活用方針については。

答 インストール以外のアプリも希望があれば、教育委員会で判断している。授業の目標や子どもたちに合わせ、使い方の中から最善のものを選択していく必要がある。

問 1人1台タブレット端末の整備に要した経費とランニングコストは。

答 小中学校あわせて4,652台配備し、導入費用は、国からの補助金を差し引き、5年リースで約1億7,200万円。ランニングコストは、回線利用料、タブレット端末管理、Webフィルター、端末補償、保守費用、学習支援ソフト等を含み、5年間で約3億9,600万円。

問 5~7年後には機器の更新を迎え、その時の財政負担は厳しいと想像されるが、「個人所有端末の使用」について現在の考えは。

答 7年程度は使用する見込みなので、5年程度経過した時点で文科省の動向等をみながら、個人所有の端末の活用も含めて検討する。